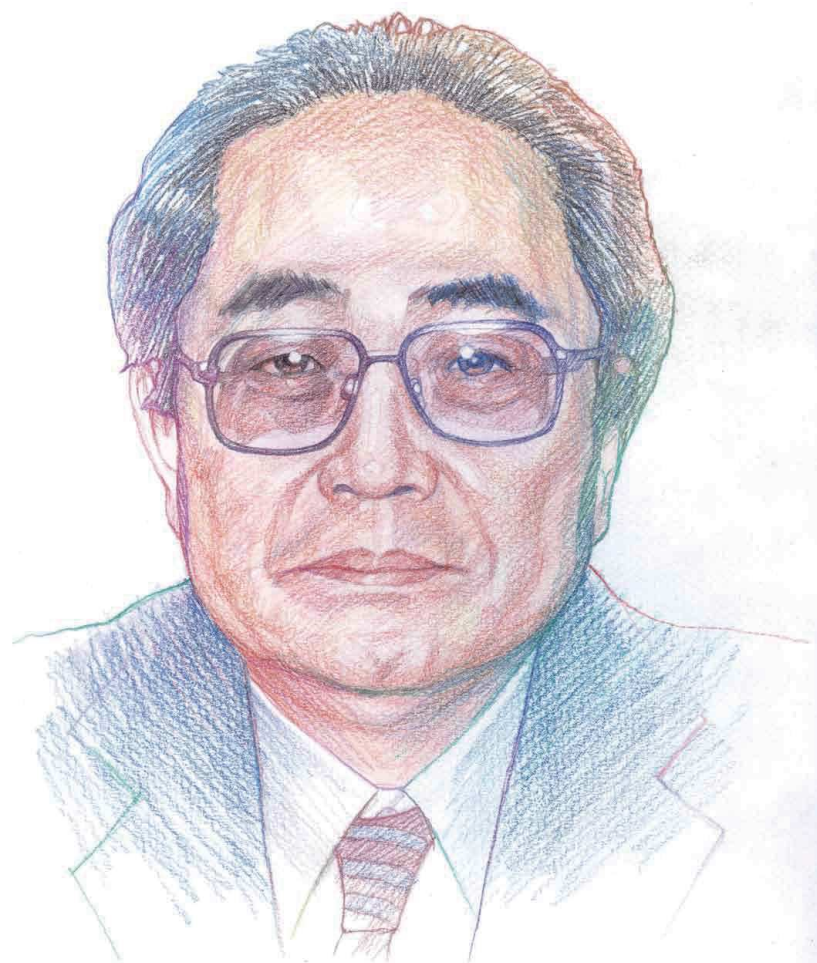


ジャーナリストから直木賞作家

みつ おか

あきら

Mitsuoka Akira



昭和7年(1932)～平成16年(2004)

熊本市生まれ

小説家

宇土高校、熊本大学法学部卒業後、熊本日日新聞記者として活躍。荒木^{あらか}精之^{せいし}に勧められて小説を書き始め、『日本談義』に短編小説「卵」を発表。熊本を舞台にした「いづくの蟹^{かに}」「湿舌^{しつぜつ}」など数点が芥川賞候補となった。1982年『機雷』で直木賞を受賞。新聞記者の経験を生かし、豊富な資料を駆使して小説の世界を構築。卓抜^{こうちく}な構成力と緻密^{たくぼつ}にして律動的な文体^{ちみつ}をもつ書き手と評される。熊本近代文学館初代館長。